

- 予測の指導法 (このアクティビティーは「背景的知識」の指導としても活用できます。)

① まず、学習者を2つのグループに分けて A グループには A のタイトルを、B グループには B のタイトルを配布する。この時、2つのグループの距離をできるだけ開けて、異なるタイトルが配布されていることに気づかれないように注意する。

A グループ：A prisoner plans his escape.

B グループ：A wrestler in a tight corner

② 次に、タイトルをよく読み、これから聞く内容を予測した上で、学習者の能力に応じて幾つかの語句の品詞と意味を与えたり、各自で調べさせる。

例) mat (名詞)、escape(名詞)、hesitate(動詞)、bother(動詞)、held(動詞)、charge(名詞)、weak(形容詞)、consider(動詞)、present(形容詞)、lock(名詞)

③ 次に、以下のオーディオ・スクリプトを読み上げ、概要を各自に書かせる。読み上げる回数は学習者の能力によって調整しますが、最高でも5回までとする\*。

④ 次に、同じグループ内でそれぞれの概要を見せ合い、比較させます。その上で、各グループから数人に概要を発表させる。「予測」というリスニング・ストラテジーが正しく活用されていた場合、この段階で、同じ内容を同じ回数聞いているのにも関わらず、A グループは囚人についての、B グループはプロレスラーについての話に分かれる。この時、後から発表するグループは前に発表したグループの内容に影響を受けて、所有しているタイトルとはまったく違う前に発表したグループの内容に追従するかのよう内容を発表する学習者も多々いることを指導者は考えに入れておく。

⑤ 最後に、全ての学習者に両方のタイトルを見せて、同じ内容を同じ回数聞いても、タイトルから受ける影響は大きい、つまり、「予測」というリスニング・ストラテジーの効果や影響の大きさを指導する。

オーディオ・スクリプト-----

Rocky slowly got up from the mat, planning his escape, he hesitated a moment and thought. Things were not going well, what bothered him almost was being held, especially since the charge against him had been weak. He considered his present situation. The lock that held him was strong, but he thought he could break it.

(Anderson, Reynolds, Schallert and Goetz, 1977, p.10)

⇒ 「予測」というリスニング・ストラテジーが正しく活用されていなかった場合

- タイトルをきちんと読んでいたかを check する。
- タイトルによって意味が変わる単語の意味がきちんと理解できていたかを check する。

タイトルによって意味が変わる単語	A グループ	B グループ
	A prisoner plans his escape.	A wrestler in a tight corner
mat (名詞)	留置場や刑務所内の囚人用のベッドマット	プロレスのリング内の白いマット
escape(名詞)	脱獄する	免れる
held(動詞)	留置・逮捕・拘留されている	押さえ込まれている
charge(名詞)	嫌疑・容疑	攻撃
weak(形容詞)	軽微な・軽い	弱い・甘い
lock(名詞)	錠前・鍵	固め技

\* 聞く回数は5回までと指導します。これはシャドーイングの研究結果ですが、5回までは聞く回数に比例して統計学的に有意差 (= 科学的な効果) があるとの研究結果が報告されています (Hori, 2007)。